

復興推進会議（第23回） 議事録

1 日 時：令和元年9月20日 9：50～10：00

2 場 所：官邸4階 大会議室

3 出席者：

【議長】安倍晋三内閣総理大臣

【副議長】田中徳復興大臣<進行>

【議員】麻生太郎副総理、高市早苗総務大臣、河井克行法務大臣、茂木敏充外務大臣、萩生田光一文部科学大臣、加藤勝信厚生労働大臣、江藤拓農林水産大臣、菅原一秀経済産業大臣、赤羽一嘉国土交通大臣、小泉進次郎環境大臣、河野太郎防衛大臣、菅義偉内閣官房長官、武田良太国務大臣、衛藤晟一国務大臣、竹本直一国務大臣、西村康稔国務大臣、北村誠吾国務大臣、橋本聖子国務大臣、西村明宏内閣官房副長官、岡田直樹内閣官房副長官、杉田和博内閣官房副長官、近藤正春内閣法制局長官、菅家一郎復興副大臣、横山信一復興副大臣、御法川信英復興副大臣、松本洋平経済産業副大臣、石原宏高環境副大臣、藤原崇復興大臣政務官、青山周平復興大臣政務官、中野洋昌復興大臣政務官

4 配布資料

資 料 1 復興加速化への取組

参考資料 1 復興推進会議 構成員

参考資料 2 復興推進会議（第22回）原子力災害対策本部会議（第48回）合同会合議事録

5 議 事

復興の加速化への取組について

○田中復興大臣 ただいまから第23回「復興推進会議」を開催いたします。

発災から8年半が経過しました。安倍総理のリーダーシップのもと、各閣僚や関係者の御尽力で、東北の復興は順調に進んでまいりました。この場をおかりして、私の立場からも改めて御礼を申し上げます。

それでは、議事に入ります。

まずは、私から復興加速化への取り組みについて御説明いたします。お手元の資料1をごらんいただきたいと存じます。

1 ページでは、これまでの復興の現状と課題を整理しております。

2 ページをごらんください。被災者支援については、復興の進展に応じて生じる課題にきめ細やかに対応します。

3 ページをごらんください。住宅の再建は着実に進んでおり、来年度末までに全て完了する見込みであります。

4 ページをごらんください。産業・なりわいの再生については、観光振興や風評の払拭などに取り組みます。

5 ページをごらんください。福島の本格的な復興・再生に向けて、生活環境の整備や、帰還困難区域における特定復興再生拠点の整備などを進めます。

6 ページをごらんください。新産業を創出する「福島イノベーション・コースト構想」を推進します。

7 ページをごらんください。来年の「復興五輪」に向け、被災地の復興の姿を国内外に発信します。

最後に8 ページをごらんください。復興・創生期間の終了まで1年半となりました。今後、与党からいただいた御提言や被災地の御要望などを踏まえ、これまでの復興施策の総括を行った上で、年内に基本方針を取りまとめます。

以上で説明を終わります。引き続き、復興の加速化に向けて、各閣僚の御指導と御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

次に、各大臣から御発言をお願いいたします。順番に指名させていただきます。

まず、赤羽国土交通大臣。

○赤羽国土交通大臣 おはようございます。

まず、復興大臣からの御説明にもありましたが、復興道路、復興支援道路が来年度中に全線開通する見通しとなりました。また、今月22日、明後日でございますが、陸前高田市で国営追悼・祈念施設の一部利用が始まります。

国土交通省といたしましては、復興のさらなる加速化に向けまして、被災地の声を聞き、被災者に寄り添いながら、まだまだ課題が残るインフラの復旧・復興、住宅再建、復興まちづくり、観光振興に全力で取り組んでまいります。

以上でございます。

○田中復興大臣 ありがとうございます。

続いて、菅原経済産業大臣。

○菅原経済産業大臣 おはようございます。

一昨日、福島第一原発の構内を視察してまいりました。防護服が要らないほど線量が低減いたしました。汚染水対策や燃料デブリ取り出しについては決して簡単なものではない。そのことを認識いたしました。何よりも安全かつ着実に廃炉を完遂させていくものでございます。

また、避難指示が全面解除されない双葉町、あるいは100名程度戻ってきた大熊町、徐々に除染が進み、低減がされてまいりましたが、現場主義で復興に全力を挙げてまいりたいと思っております。

以上です。

○田中復興大臣 ありがとうございます。

続いて、小泉環境大臣。

○小泉環境大臣 おはようございます。

就任後1週間、福島に2度足を運びまして、内堀知事、そして、大熊・双葉・富岡・楡葉各町の皆様にお会いしました。特に中間貯蔵施設や特定廃棄物埋立処分施設の受け入れに当たって、ふるさとを手放さざるを得なかった苦渋の決断をされた地元の方々からは、政府全体で若手の政府職員に対しても、このふるさとを手放すということがどのような思いなのか、その苦渋の思いをこれからも語り継いで、引き継いでもらいたいと。そういう言葉がありました。

これからも復興再生に向けて全力を尽くしてまいりたいと思います。

以上です。

○田中復興大臣 ありがとうございます。

続いて、江藤農林水産大臣。

○江藤農林水産大臣 おはようございます。

福島県の復旧・復興に向けて、営農再開、風評払拭、森林・林業の再生、漁業の本格的な操業再開と、さまざまな課題をいまだ抱えております。このため、農林水産業の中長期的な復興・創生に向けたビジョンが必要で、地元との丁寧な意見交換を行いつつ、9月に取りまとめたところでございます。

農林水産省から、来年の4月を目途に被災12市町村にそれぞれ人を派遣し、県、JA及び福島相双復興推進機構とともに地域の営農再開に取り組んでまいります。

以上です。

○田中復興大臣 ありがとうございます。

続いて、加藤厚生労働大臣。

○加藤厚生労働大臣 厚生労働省としては、避難生活の長期化や恒久住宅への移転に伴う被災者の心のケア、医療・介護分野での人材不足を踏まえ、住民が安心して帰還できるようにするための医療・介護提供体制の整備、被災者に対する就職支援の推進など、被災者

の立場に立ちつつ、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

○田中復興大臣 ありがとうございます。

続いて、萩生田文部科学大臣。

○萩生田文部科学大臣 文部科学省は引き続き、児童・生徒の心のケアや就学・学習支援、魅力ある学校づくり等への支援、また、放射線教育の充実を図ってまいります。

また、廃炉に向けた研究開発や産業集積を支える人材育成など「福島イノベーション・コースト構想」を推進するとともに、原子力損害賠償にもしっかりと取り組んでまいります。

今後とも、被災地の復興に全力を尽くす覚悟です。

○田中復興大臣 ありがとうございます。

続いて、高市総務大臣。

○高市総務大臣 総務省としましては、全国の自治体に対して職員派遣を要請するなど、被災団体の人材確保を支援いたしております。

復旧・復興事業等にかかる地方負担につきましては、震災復興特別交付税による財政措置を講じてまいります。

これからも被災団体が実情に応じて、復旧・復興事業等を着実に実現できるように力を尽くしてまいります。

○田中復興大臣 ありがとうございます。

続いて、橋本オリパラ担当大臣。

○橋本国务大臣 2020年東京大会の大きな目的の一つは、復興オリンピック・パラリンピックであります。昨日、福島県知事と宮城県知事にお会いいたしまして、被災地での聖火リレーや競技開催、ホストタウンの推進など、話をさせていただきました。

組織委員会、そして、東京都、復興庁などの関係省庁と連携強化を図りながら、被災地の方々の声を踏まえた取り組みを進めて、復興の後押しをしてまいります。

以上です。

○田中復興大臣 ありがとうございます。

続いて、河井法務大臣。

○河井法務大臣 福島地方法務局富岡出張所は、東日本大震災の発生後、いわき支局の中に移転して事務を行ってきましたが、ことし10月15日、富岡町において業務を全面的に再開することといたしました。

法務省は今後とも、被災者皆様の心に寄り添う温かい法務行政を目指して取り組みを続けてまいります。

以上です。

○田中復興大臣 それでは、御発言はここまでとさせていただきます。

私も就任早々、福島県知事、宮城県知事、岩手県知事、そして一昨日、昨日と福島県の浜通り15市町村を横山副大臣とともに御挨拶にお伺いしたところでございます。

ここでプレスを入れます。

(報道関係者入室)

○田中復興大臣 それでは、総理から一言いただきたいと存じます。

○安倍内閣総理大臣 東日本大震災からの復興は、発災から8年半が経過した今なお、内閣の最重要課題であります。閣僚全員が復興大臣であるという意識を共有し、一日も早い被災地の復興に向けて全力を尽くしてください。

復興・創生期間は残り1年半となりましたが、その後も政治の責任とリーダーシップのもとで、復興を成し遂げるため、年内に復興の基本方針を取りまとめます。各大臣におかれては、復興大臣を中心に、これまでに実施した復興施策の総括を行うとともに、被災地の実情をきめ細かく把握するなど、取りまとめに向けて、しっかりと取り組んでください。

福島の復興なくして、東北の復興なし。東北の復興なくして、日本の再生なし。省庁の縦割を排するとともに、被災者の声にしっかりと耳を傾けながら、現場主義を徹底し、復興の加速化に政府一丸となって取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします

○田中復興大臣 総理、ありがとうございました。

報道関係者はここで退場願ひます。

(報道関係者退室)

○田中復興大臣 それでは、本日はここまでとさせていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。

(以 上)